

令和7年度の学校評価（重点目標）

本年度の重点目標			
担当	担当の重点目標	具体的方策	留意事項
1 総務部	ア 業務、行事の改善と各種会議のデータ化	・現状の業務、行事を見直し、運営委員会、職員会議等の各種会議のデータ化を行う。	・業務の円滑化とミス防止を目的とする。
	イ 創立10周年記念行事に向けた準備と運営	・創立10周年記念行事実行委員会を3回開催する。	・運営委員会の最後に創立10周年実行委員会を実施し、情報共有をする。
2 教務部	ア 学習評価の共有と学習活動の改善	・学習評価の項目と評価方法について理解を深め、意欲的な学習活動を促す。	・シラバスの活用と、観点別評価を生徒の学習改善に直結させる。
	イ ICT機器の活用による成績処理業務の改善	・デジタル採点システム「百問繚乱」の導入と、システム利用による改善状況を確認する。	・システム導入と運用に関するアンケートを行い、状況を把握する。
3 生徒指導部	ア スマホやSNSの利用におけるモラル・マナーの向上	・生徒個々の自律心を養うことを目的とし、生活委員と共に啓発活動を行う。	・具体例を示し、何が問題なのかを理解させる。
	イ 自転車整備状況の改善	・年1回の定期点検に加え、交通安全委員と共に追加の自転車点検を実施する。	・自転車利用における安全及び法令遵守の意識向上を図る。
4 生徒会部	ア 生徒の自主性を促す活動の実施	・学校の課題を洗い出し、毎月一度、生徒による活動を実施する。	・生徒会執行部が中心となり、様々な分掌と連携して生徒主体で進めていく。
	イ 生徒会部、部活動の地域連携	・年度初めに地域貢献活動の計画を立て、計画に沿って地域と連携していく。	・行政や地域との連携を密にし、協力が得られるように進めていく。
5 保健部	ア 自発的な学習環境美化意識の涵養 ・日常の清掃活動の充実 ・美化委員会の活動 ・安全点検	・清掃道具の充実を図る。 ・安全点検、用具点検を定期的に実施する。 ・生徒美化委員会の活動を充実させる。 ・奉仕活動	・各清掃区域の実態に即した清掃道具の確保に努力する。 ・生徒奉仕活動の定着を図る。
	イ 健康教育の充実 ・各種検診 ・保健委員会の活動 ・教員の長時間労働による健康障害の防止	・個別指導を通して、自己の健康に関心をもたせ、自己管理能力の向上を図る。 ・生徒保健委員会活動を充実させる。 ・定時退校日の案内を徹底する。	・体調の自己管理表を活用し、熱中症の予防と健康管理に努める。 ・「保健だより」や掲示物を通じて情報を発信する。 ・広報活動と安全点検を実施し、学校の安全と衛生に努める。
6 図書部	ア 図書館機能の充実	・地域の公共図書館と連携を図ることにより、本校の図書館機能を拡張する。 ・読書センターとして、生徒の健全な教養を育むための図書を選定し、読書の習慣化を促す。	・地域の公共図書館のセット貸し出しを利用し、本校の蔵書を補い、教科を支援できる体制を作る。 ・本校の蔵書構成で不足している分野を中心に本を選定する。
	イ 生徒図書委員会活動の活性化	・従来の図書委員会活動をさらに充実させる。	・本校文化部と連携し、図書館行事を図書委員主体で開催し盛り上げる。

7 進 路 指 導 部	ア 企業内学園・技術職（専攻科含む）・公務員合格者 70 名の実現 イ 企業の一次内定率の向上	・Teams 等を使用して情報共有を行い、進路に関する意識を高める。 ・キャリア教育活動等の充実 「夢・志クエスト」を出発点とし、キャリア教育の充実を図る。 ・T&E サポーター企業、連携校から講師を招き、キャリア教育に基づいた講演を月1回程度行う。	・進路に関して主体的に行動できるように指導する。 ・進路に関する自分の希望、保護者の考えが最終的に合致できるよう努める。
8 進 学 部	ア 3年後を見据えた計画的な進路指導の実現 イ 生徒一人一人の特色に合わせた進学指導により愛知総合工科高校から学びの継続による工業系リーダーの育成	・3年間を見通した進路指導を行えるよう進路ホームルームや学年の進路行事を計画的に実施する ・進路検討会を通して、学年と学科間の連携を深め、生徒の進路実現の関する業務を円滑に実施する。	・各学年の意向や状況を確認しながら情報を提供していく。 ・過去の入試実績などを分析し、本校生徒の特色に合った進路指導を行う。
9 工 務 部	ア 魅力ある工科高校づくりの実現 イ キャリア教育の充実	・「課題研究発表会」、「学校説明会」、「学科別体験イベント」、「文化祭」などを通して工業の内容を広く発信する。 ・校内のインターンシップのほか、キャリア教育推進事業（アントレナーシップ教育、地域ものづくりスキルアップ講座など）への積極的な取組が実現できるように生徒へ促す。	・工業科、生徒会部、進路指導部、広報・ICT推進部と連携を取り、より魅力的な広報活動に努める。 ・工業科、進路指導部、学年と連携し、生徒が柔軟にキャリア教育活動ができるように日程を調整する。
10 広 報 ・ I C T 推 進 部	ア 創立10周年を契機とした戦略的広報の展開により、「CHANGE」を体現する学校の魅力を全国へ発信する。 イ ICT 活用の深化を通じて、校内外の情報共有と連携を加速し、変化に柔軟に対応できる組織づくりに貢献する。	・周年事業や各種プロジェクトを軸に、動画・SNS・特設サイトなどを活用した多角的な広報を展開し、学校の進化と魅力をタイムリーに発信する。 ・教職員・生徒への情報共有において、クラウドツールやチャットツールの運用を最適化し、ICT を基盤とした協働と迅速な意思疎通を促進する。	・デザイン・文言・発信媒体の一貫性を保ち、学校ブランドの統一感を損なわないよう配慮する。 ・ICT ツールの導入・運用にあたっては、使いやすさやセキュリティ面への配慮を重視し、教職員や生徒への丁寧なサポートとガイドを行う。
11 1 年 生	ア 基本的生活習慣の確立 イ 学力の定着 ウ 卒業後の進路実現	・基本的生活習慣確立の意識付けを行い、欠席・遅刻・早退の数を減らす。 ・定期考査や到達度テストの結果を活用し、生徒の学習に関する指導・助言を行い、学力の定着を図る。 ・卒業後の進路実現をさせるために進路指導部と連携しながら、受験や就職にたいする意識付けを行う。	・健康管理や時間への意識が高まるように指導する。 ・定期考査の事前対策などの意識をもたせるだけでなく、日ごろの計画的な学習習慣を身に付けさせる。 ・本人、保護者、担任がチームとなり、進路を実現していく体制を整える。また、チーム担任制を活用し、それぞれの生徒に合った指導をする。

12 2 年 生	ア 基本的学習習慣の定着と向上 イ 他者との繋がりを実感できる意識の高揚 ウ 卒業後の進路実現	・教科を問わず、日々の授業を大切に、学習に向かうことを習慣化させる指導を継続する。 ・学校以外の場においても学びを継続するための情報提供を、関係各所との連携の中で進めていく。 ・生徒を囲むよう形で、チーム担任、進路指導部、各学科が協力し合い、進路指導を進める。	・個々に応じた学習意欲を喚起し、目標を達成することができるような指導をする。 ・校外活動、校外学習などが、学校外の学びであることを意識させて、生徒の成長に繋がるような課題を与える。 ・チーム担任、進路指導部、各学科が、生徒を囲むよう形で進路指導ができる体制を整える。
13 3 年 生	ア 自立・自律・時律 イ 現状に満足しない学力の定着 ウ 卒業後の進路実現	・時間を守る・環境を整える・礼を正すことで、あらゆる場面において自らに責任をもって行動させる。 ・日頃の授業はもちろんのこと、補講や家庭学習をより充実させ、確かな学力を身に付けさせる。 ・進路指導部と連携を図り、生徒、進路指導部員、担任、各学科と協力して進路面談の時間を設ける。	・一人の人間として独り立ちできるよう、当たり前にするべきことを指導する。 ・学習に対し、さらなる意識をもたせる。 ・生徒、進路指導部、担任、学科で連携を取り、生徒が進路実現していく体制を整える。
14 理 工 科	ア 学びの探求 イ 進路実現の探求	・自らで問いを立て、自らが考える正解に向かって考え続けさせることで、思考力の育成に努める。 ・教科「実習」の教材の充実に努める。 ・大学訪問や、大学と連携することで、本校生徒の興味・関心の幅を広げられるようなキャリア教育を行う。	・ICTを活用し、キュレーションとアイデアの壁打ちを繰り返す。 ・ルーブリック評価を各科目で実施する。 ・数学科と理科と連携して、授業進度などの情報交換を行う。 ・担任・進路指導部と情報を共有する。
15 機 械 系 学 科	ア 自ら考え、行動できる生徒の育成 イ 社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）の醸成	・職員は生徒に寄り添い、積極的な関わりをもち、個々を尊重し自ら考え、行動する力を伸ばす指導を目指す。 ・大学や企業など外部との連携教育を通して自主自律の精神と、他者への理解と尊重を深める。 ・生徒個々やグループに対して、適切な課題を設定し、問題解決に向けて取組ができ、それぞれの力を育む指導を目指す。	・教科・学年・分掌の教員間で生徒の情報を密に共有し、理解を深める。生徒に応じた指導を相談しながら進めていく。 ・個々に応じた課題や目標を設定し、取組状況を定期的にフィードバックしながら達成度を把握する。
16 電 気 系 学 科	ア 学習指導の充実 イ 進路指導の充実	・基礎・基本的な知識と技術を取得させ、応用力を身につけさせ、国家試験の第一種電気工事士や第三種電気主任技術者試験、ITパスポート、基本情報技術者試験を取得させる。 ・キャリア教育活動に参加させ、実践的な技術や知識を学ばせ、個々の生徒が目指す進路について調べさせる。	・生徒の能力を把握し、個々の生徒の能力に合わせた指導をする。 ・企業や進路先と連携した教育活動に努める。

17 建設科	ア 工業教育の強化 ・生きた学びの実践 イ 進路指導の充実	・課題研究における外部連携など、実践的な知識、技術を学ぶ機会を設けるとともに、建設業界への興味関心を高める。 ・課題研究を軸に探究活動の充実を図ること、専門的な知識・技術の向上を目指す。 ・工業の特色を生かした大学進学、技術系公務員や企業（技術職）への就職を支援する進路指導体制を継続的に展開する。	・あいちT&Eサポーター企業をはじめ、建設分野に関連する業界団体、大学等と連携した教育活動を実践する。 ・生徒自らが主体的に行動するために必要な支援を継続的に行う。 ・進路指導部、進学部との連携を密にした上で、生徒に寄り添った指導を実践する。
18 デザイン工学科	ア 産業界で活躍するデザイナーの育成 ・デザインの魅力を発信 ・進路指導の充実 イ 地域、企業、大学との連携	・大学、企業との外部連携を通してデザイン業界の現状と魅力、大学毎の情報を伝える。 ・国公立大学進学を主軸とし、進路面談、多様な補習を実施する。 ・地域、企業、大学と連携した制作活動をするともに、生徒の活動成果を積極的にPRする。	・大学進学を主軸とした進路実現に必要な情報を提供するとともに、必要とされる能力や条件等を周知し、計画的に学習できるよう指導する。 ・進学希望者に入試対策としての実技指導を計画的、継続的に行う。 ・企業や地域と連携し、社会におけるデザインの役割を理解させる。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		・望ましいキャリア教育と進路指導 ・保護者や地域に信頼される学校づくりと情報発信 ・生徒に寄り添う学校づくり ・ICTの効果的な活用 ・いじめの未然防止に関わる適切な対応 ・勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止の実施状況	